

# 準備学習ポイント一覧

科目名	神経系障害 理学療法治療学	教員名	桐山希一・高尾敏文 ・山本竜也・林隆司	学科/区分	理学療法 必須	履修年次	3
授業計画	回	授業項目	準備学習キーワード 使用教科書掲載箇所(ページ等)				
	1	神経系障害の理学療法 アプローチの考え方	キーワード:神経生理学的アプローチ, von Uexkull-Magnusの法則 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, 第2章 各論, 1 脳血管障害 の理学療法 p.113-124				
	2	意識障害に対する 評価と治療	キーワード:JCS, GCS, せん妄, 錯乱, もうろう状態, 脳循環不全 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, 第2章 各論, 1 脳血管障害 の理学療法 p.142-144, 病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.548				
	3	脳神経検査	キーワード:視力, 視野, 眼球運動, 眼振, リンネ試験, ウェーバー試験, ベル麻痺 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.59-63, 病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.242-283				
	4	筋緊張、分離運動	キーワード:痙縮, 固縮, 連合反応, 共同運動パターン, 分離運動 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.52-55				
	5	運動麻痺の評価 と治療の原則	キーワード:Brunnstromの回復段階 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.52-55				
	6	バランスの評価 と練習方法	キーワード:反射と反応, 姿勢反射, 平衡機能 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.66-67				
	7	脳血管障害の機能障害 に対する評価	キーワード:SIAS・BBS・FRT・TUG 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, 第2章 各論, 1 脳血管障害 の理学療法 p.25-130				
	8	脳血管障害の治療(急性 期)の基礎および歩行につ いて	キーワード:良肢位・ポジショニング・基本動作・三角巾 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, 第2章 各論, 1 脳血管障害 の理学療法 p.25-130				
	9	各治療場面の脳血管障害 の理学療法～臥位	キーワード:起立性低血圧の測定, 車椅子のシーティング 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.87-90				
	10	各治療場面の脳血管障害 の理学療法～座位	キーワード:座位バランス練習 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.90-92				
	11	各治療場面の脳血管障害 の理学療法～立位	キーワード:歩行バランス, 歩行練習 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.90-96				
	12	パーキンソン症状および 運動失調に対する理学療 法	キーワード:ペーシング, すくみ, 突進現象, 小歩症, 運動失調, PNF 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I, p.27-41, P.49-61				
	13	高次脳機能障害 の基本的知識(1)	キーワード:アナルトリー・喚語困難・錯誤・保続・失語図式・肢節運動/観念運動/観念失行 参照:病気がみえる vol.7 p.22-39, 157-163; 神経障害理学療法学 I p.55-58, 110-112				
	14	高次脳機能障害 の基本的知識(2)	キーワード:注意・遂行機能・記憶・社会的行動・視覚性失認・ゲルストマン・空間無視 参照:病気がみえる vol.7 p.22-39, 157-163; 神経障害理学療法学 I p.142-163				
15	高次脳機能障害 の基本的知識(3)	キーワード:BIT・CAT・TMT・SLTA・BADS・HDSR・MMSE・レーヴン色彩・三宅式記録 参照:第13・14回講義配布資料, 神経障害理学療法学 I p.142-163					
教員からの メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「神経系障害の特性と対応」「神経系障害基礎理学療法学」「神経系障害理学療法評価学」の授業内容が基礎となっています。相互の科目どうしの関連を各自で予習や復習し、確認しながら授業に望んでください。</li> <li>・授業で演習した内容は時間内で身につくものではありません。必須となる技術や手技ですから、授業中にはしっかりと理解して、各自練習時間を設けて今後の臨床においては間違いなく実施できるようにしておきましょう。</li> </ul>						